

第484回 番組審議会

1. 日 時 平成25年3月19日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 12名

出席委員 8名

委員 長	望月 善次
委員	池田 克典
委員	吉江 信博
委員	平 英一
委員	遠藤 雅也
委員	國分 正人
委員	村川 健一
委員	千葉 隆史

欠席委員 4名

副委員 長	福田 泰司
委員	柴田 和子
委員	坂本 修
委員	鈴木 正之

社側出席者	檜崎 憲二 (代表取締役社長)
	矢後 勝洋 (特別顧問)
	山口 英二 (常務取締役)
	淵沢 行則 (取締役報道制作局長)
	野田 喜代志 (報道制作局制作部局次長)
	栃澤 卓巳 (報道制作局制作部副部長)

事務局	遠藤 隆 (編成技術局長)
	畠 義真 (編成技術局次長)
	平山 亜希子 (編成技術局編成部主任)

4. 議 題

1. 3/2 (土) 10:00～10:30 FUTURE! 元気びと
～ 3. 11 から 2 年の歩み～岩手編
2. その他

5. 資 料

資料として以下のものを配布

- ・ 視聴者からのご意見

6. 意 見

委員側意見

○主人公の宮崎さんは北海道出身でフランスで活躍していた。北海道出身で違和感があったが、奥さんが岩手の人で地元のブランドを作ることが町を作るという考えには共感できる。宮城、福島と三部作を合わせてみると、それぞれの人を取り上げた意味が分かる。しかし岩手の番組だけだと県外の人为中心的に取り上げられていて違和感があるかもしれない。また番組の所々でモザイクがかかっている不都合があったのか聞きたい。エンディングテーマ臼沢みさきさんのアメージンググレースは良かった。

○宮崎さんがいりや水産を、被災して 4 ヶ月後に立ち上げたのはすごい実行力。しかしこの間の経緯をナレーションに入れても良かったのではないかな。困難なこともあっただろう。高橋佳代子さんのナレーションも安心感がある。未来に向かって希望がもてる番組だった。

○今回は印象に残る番組だった。宮崎さんの「避難所に遺骨が並んでいるのをみて人生観が変わった。」という言葉が印象的だった。遺骨に無念の魂の声を聞いたのではないかな。容器に十把一絡げで捨てられる魚からブイヤベースを作る。魚も命だ。これを生かすのが大切。自然に畏敬の念を持つニ科尔さん。宮崎さんの姿勢に共感したのではないかな。

○なぜ宮崎さんを選んだのかわからなかった。ブイヤベースを取り上げた理由もわからない。有名な人であることはわかるが、ニ科尔さんがなぜ出てくるのかもわからない。この番組は地元密着とはかけ離れている気がした。

○外から来て頑張っている姿は地元の人々の励みになる。これまで地元出身以外はボランティア。しかし今回紹介した宮崎さんと井上さんは地元で根を張っている。地元の人を雇用して復興につなげる。素晴らしいこと。

○他の局との比較。大震災 2 年。テレビ岩手の全体像は？局としては震災番組全体の中で今日の番組をどう位置づけていたか？

テレビ岩手側意見

○この番組はNTV系列の制作部による共同制作。1 回目は福島中央テレビが、2 作目は宮城テレビが制作し、3 作目はテレビ岩手が幹事社となった。ニュース的な切り口もあるかもしれないが、この番組は人をテーマにしたかった。3 局による打ち合わせでも宮崎さんは

被災者ではないと言う指摘があった。しかし被災地には外からやってきてリーダーシップを発揮している人もいる。岩手はそこに着目した。ニ科尔さんは長野の黒姫高原に住んでいて、3.11 の発生以降、被災地の子供を招待している。被災地に心を向けている。この番組だけを単体でみた場合は、なぜ県外の人間を描くのか違和感があるかもしれない。地元にもすごい人はいるが、何かを見据えて発信している人を取り上げるのも良いのではないかと思った。モザイクについては社内でも議論をしているが、視聴者に違和感をもたれないような工夫。これから番組を作る上で考えなければならない。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、関係部署に議事録を配布するなど関係者に審議の内容を伝えた。

8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

- ・ 自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」

平成 25 年 3 月 26 日（火）（午前 11 時 45 分～11 時 52 分放送）で、審議の概要を放送。

- ・ 支社、支局に議事録を設置。
- ・ 当社のインターネットのホームページで議事録を公表。